

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型通所支援事業所ビーンズリーフ		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者が安心し、楽しめるような環境づくりを心掛けている	看護師が多数在籍している。 活動の中で利用者の状態や成長発達に合わせどのように支援を入れるか意識して行っている。	利用者の状態把握をしながら活動に当たる。 様々な活動を通して情報をまとめアセスメントし、常に利用者に合わせて支援を入れながら活動を行う。
2	外出やイベントを多く実施している	沢山の経験が積めるよう様々な活動を立案している(例:畑での作業、パンの購入体験、VRを活用した体験等)。	利用者の普段の様子を観察・評価し、外出する際にどのようなリスクが起こるか予測する。 今後も新しい経験を通して興味や関心の幅を広げていく。
3	お迎え時・送迎時のお引き受け、お引渡し時に体調確認等必ず行っている。	体調面や医療的ケアに関してはすぐに看護師に情報共有を心掛けている。 また生活面でのご本人・ご家族の相談事があった際も全スタッフで情報共有を行っている。	送迎の時だけでなく、いつでも保護者が相談できることを周知し、時間を設ける。また、いつでも活動の様子が見学できることも合わせて周知する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育について	個別支援計画を通して課題の立案しているが、それに適した活動の選択に迷う時がある。	スタッフが担当制で利用者一人ひとりの評価表を作成し、段階を踏みながら目標達成できるようにする。スモールステップを作成することで、活動を具体的に考え取り入れていく。
2	スタッフの情報共有不足	登所時やお迎えに行った際に、ご家族から聞いた情報の共有が、活動開始前にスタッフ全員に同じに伝えることが難しい時がある。	共有することが難しい場合はホワイトボードに記入や、電子端末等を活用し、情報共有するように心掛ける。
3	個室空間が少ない	個室を利用したいタイミングが重なった時に、不足することがある。	利用者の状態に合わせてパーティション等使用し、仕切りを作り、必要に合わせて使用できるようにする